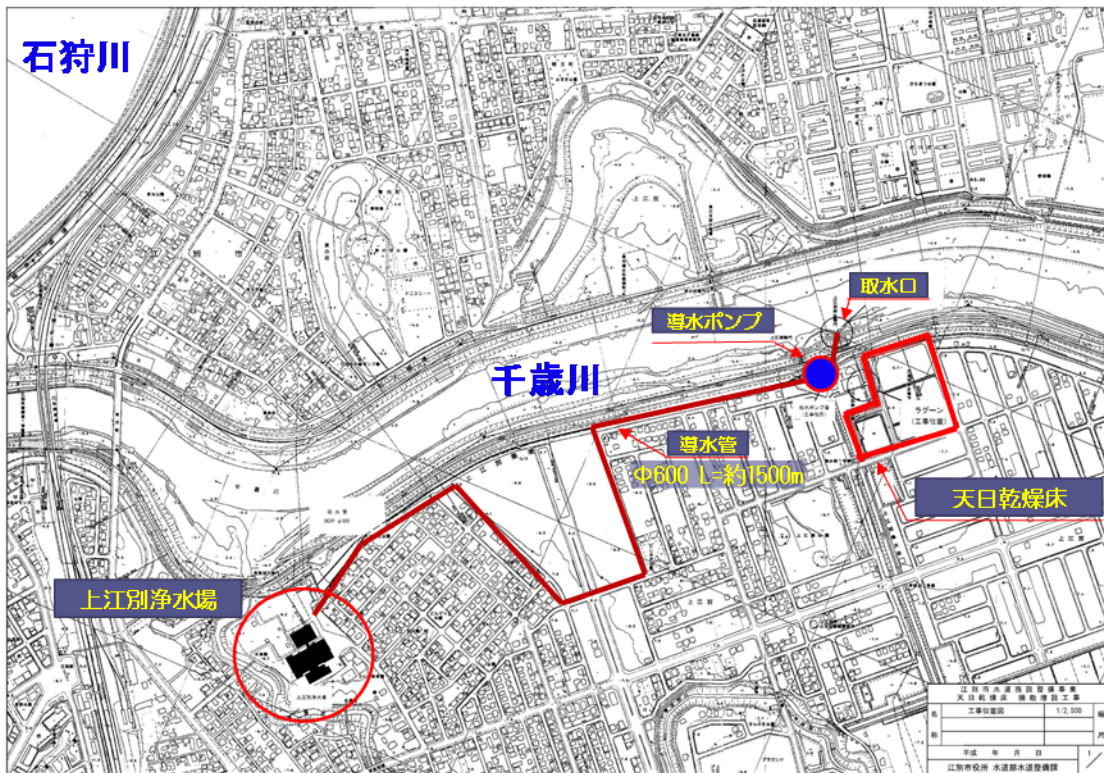


『原水を溜める施設』の概要について

◎目的

千歳川の濁度が上昇し、取水を停止した場合でも、断水を回避若しくは断水災害を軽減するために、高濁度になる前の原水を一時的に貯留し利用することで、浄水場の運転を継続することを目的としています。

なお、『原水を溜める施設』は、大雨台風時期の前に完成させることを目指して、既存の天日乾燥床（ラグーン）を有効活用しました。



【天日乾燥床 全景】



【活用した天日乾燥床】

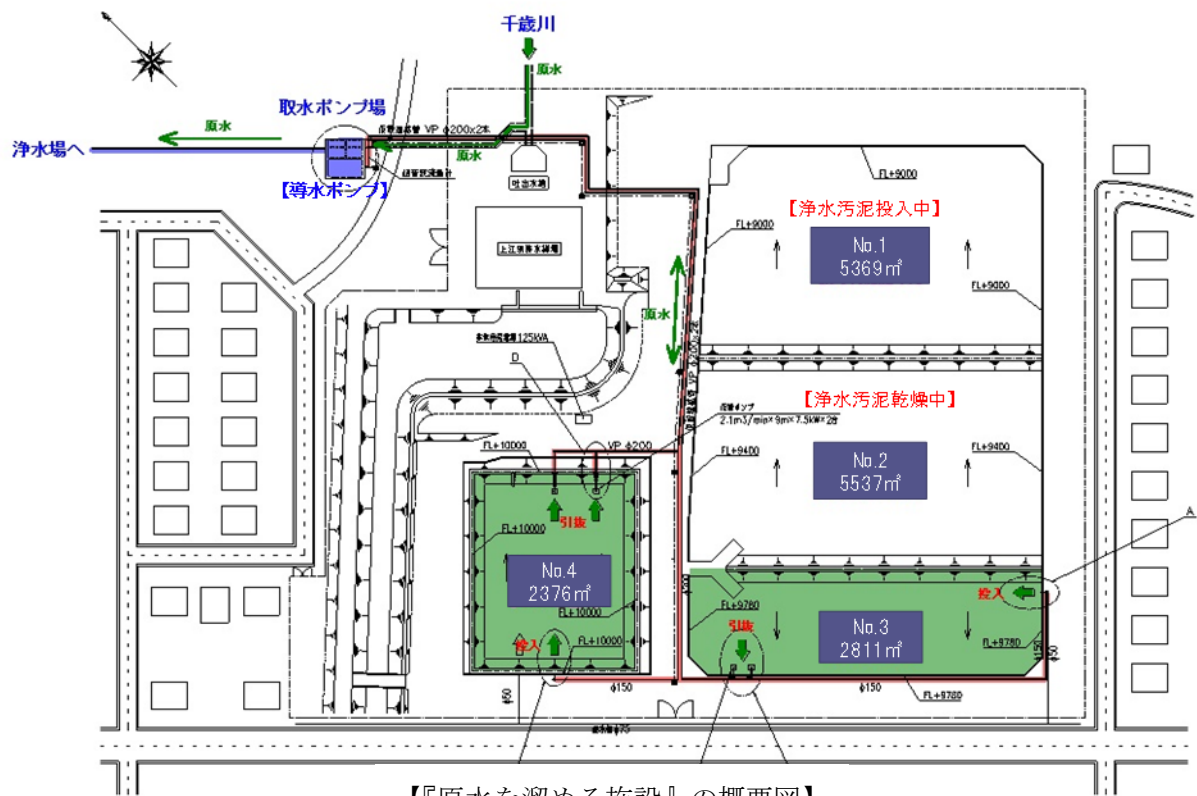
◎ 『原水を溜める施設』 の能力

昨年の9月11日に発生した断水災害は、夕方6:45から次の日の明け方6:30までの約12時間にわたり、千歳川から原水を取水することができなかったことが原因の一つですが、この時に取水できなかった量を、過去の同じ時間帯の取水量から算出すると、約4,800 m³になります。

この約4,800 m³に対し、今回の施設は最大で約5,200 m³の原水を貯留できる能力があります。

◎ 工事概要

『原水を溜める施設』は、千歳川の濁度が上昇するまでに、下図のように千歳川からの原水を一時的に天日乾燥床（ラグーン）に溜めておくことで、千歳川からの取水を停止した場合でも、溜めていた原水を汲み上げ、取水ポンプ場経由で上江別浄水場へ送ることで浄水処理を継続します。



【天日乾燥床 原水投入状況】



【天日乾燥床 原水貯留状況】